

福島県道路公社事業の在り方に関する懇談会（第1回）の概要

- 1 日 時 日時 平成17年5月23日（月） 午後1時30分～3時50分
- 2 場 所 福島市杉妻町2-16 福島県庁本庁舎2階 第1特別委員会室
- 3 懇談会委員（11名、五十音順、敬称略）
 - 伊関 明子 店舗経営者（公募）
 - 川口 敦郎 『東北 じゃらん』（リクルト）編集長
 - 車田 次夫 町村会長（玉川村長）
 - 齋藤 忠 公認会計士
 - 齋藤 恵子 土湯女将会会長
 - 佐藤 勝三 福島県商工会議所連合会会長
 - 鈴木 浩 福島大学教授
 - 高原 浩 農業兼会社員（公募）
 - 中野 藤男 福島県観光連盟副会長
 - 野崎 満 （社）福島県バス協会会長（欠席）
 - 宮本 和明 武蔵工業大学教授

4 懇談会内容

開会后、次第に基づき、蛭田土木部長よりあいさつ、懇談会委員名簿により各委員を紹介、続けて座長に福島大学教授鈴木委員が選出され懇談に入った。

(1) 事務局説明

事務局より資料に基づき「福島県道路公社事業の在り方に関する懇談会設置要綱」、「有料道路事業の制度と役割」、「福島県道路公社事業の現状と課題」について説明。

(2) 意見交換

（意見交換内容のとおり）

(3) その他

ア 今後の議事の進め方

検討すべき課題を踏まえた今後の議事の進め方について、事務局より提案、了承

イ 第2回懇談会の日程

平成17年6月17日（金）午後1時30分～

< 意見交換内容 >

座長

今回は、道路公社の現状、課題を委員の方々に共通認識に立っていただく観点から、残された時間、できるだけ疑問点解消のための質疑応答に充てたい。

委員

償還は、プール制はプール制の範囲で、単独路線は各路線ごとに会計するとのことだが、維持管理費についてはどのような取り扱いとなるか。

事務局（道路公社総務部長）

路線ごとに管理し、通行料金で不足する場合、県から借り入れている。

委員

路線ごとのバランスシートはどのようになっているか。

事務局

資料4に記載されている路線ごとの収支状況のとおりとなっている。

委員

バランスシートと損益計算とキャッシュフローの意味合いは異なるのでは。

委員

資料5の4 - 4ページにある路線ごとの損益計算内訳表が計上されており、先生の質問のとおりそのバランスがどうなっているかという点の確認と、基本財産の県出資金の割合は、適正に維持されているかという点と、スカイライン等プール制にしているが、改修費を入れた場合、どんどん償還期限が延びることになる可能性があり、そこをどのように整理しているか。

事務局

各路線ごとにP L（損益計算書）、バランスシートを作成している。

委員

資産評価はしているか。

事務局

各路線ごとの資産評価は行っていない。投資した建設事業費が簿価となっている。

参考資料4 - 4 各路線ごとに収入と費用、収支差が記載されている。収入が多いところ少ないところ、経費がかかるところかからないところがある。

例えばプール制は収入が多いが、単独路線では、ばらつきがある。それら各路線をトータルしたものがP Lにまとめられている。

プール制に移行した場合メリットについての質問と思われるが、スカイライン、レークライン、ゴールドラインの3路線は、観光ルートとして相互に関連することからプール制を取っており、単独路線でマイナスとなるような場合でも3路線を併合して収入を各支出に充てることを基本的な考え方としている。

委員

プール制はプール制でいかないと。スカイラインの問題点は、通行台数がピーク時の半分まで減っていることで、元に戻す必要がある。そのためには魅力的な料金設定が必要では。

通行料金徴収と浄土平駐車場の二重払いはやめてほしい。そのための関係機関との調整も早くしてほしい。料金が駐車場と合わせて約2,000円するが、1カ所で合わせて徴収するとか、金額を下げるなどすれば、車も倍ぐらいに増えるのでは。

福島市は花見山公園が有名で、首都圏からバス200台以上訪れるが、花見の後、とんぼ返りしてしまう。スカイラインを4月1日開通とすれば、ルートとして回るので、温泉地への誘客など経済効果も出るのでは。県全体の経済効果を考えてもらいたい。

他の路線で社会実験を行ったとのことだが、来年4月1日からスカイラインでも社会実験を実施してもらうと有り難い。

道路公社の在り方やビューポイントの整備なども民間の考え方を取り入れながら考えてもらいたい。

スカイライン周辺は一番の観光資源であり、首都圏から人が来て金を落とす仕組みを考えてもらうと有り難い。

事務局

魅力ある料金は重要な課題であるが、道路公社においては、設立目的のため健全経営を図る観点が必要。収入、支出どちらも検討しなければならない点ご理解いただきたい。貴重な意見として拝聴したい。

通行料金と浄土平駐車場の二重払いではという点については、駐車場が国の財団法人の管理で、料金体系も全く異なることから、今すぐ解決できる問題ではないが、様々なところから要望もあり検討していきたい。

スカイラインの4月1日開通の件に関しては、場所が山岳地帯の厳しい傾斜地という点と豪雪地帯という気象条件などから、急斜面における除雪など作業員の安全を確保する必要があり、また県の除雪時期と重なることによる除雪機械の調達方法や、除雪後の降雪に伴う除雪経費の問題がある。早期開通には努力したいが、経費の問題など県と協議しながら観光等地域振興も念頭に検討していきたいと考えている。

委員

4月1日に開通すれば、エージェントの方でも企画商品が作れる。そのためには9月頃までに開通時期を決定する必要がある。花見山にはバスが沢山来るが、2割ぐらいスカイラインに行けば、各温泉地も全然違ってくる。

立山、八甲田など10mもの高さになる道路でも除雪している。除雪機は県に買ってもらえばよいのでは。知事にも県内の経済効果について話している。今経済研究所とシンクタンク福島で経済効果について研究中で、7月には結果が出る予定。

駐車場の方は環境省とのことだが、料金を1カ所取って按分するなど、方法はあると思う。

市内の共通駐車場を10月から毎週日曜日無料化する予定。そこでの問題は、仙台に買い物に行く人は無料の県庁駐車場に置くので、4時間以上は有料にしてもらえないかという要望がある。

花見山の関連では、来年4月の土日は市内の駐車場を無料にして停めてもらい、そこから花見山公園まで輸送し、月曜日から金曜日までは競馬場の駐車場を利用するなど、無料化を図っていきたいと考えており、お願いすることがたくさんある。

座長

かなり具体的な提案を持って、この懇談会に望まれているようで。

委員

旅行者に「どこかいい所ないか」とよく聞かれる。今はよく整備されており、近くに良い所がたくさんあるが、客は昔行ったときのイメージで見えており、別の場所を探そうとする。スカイラインなどすばらしい観光地を持っているのに残念。

バスの車窓から眺める景色は乗用車で見るよりずっとすばらしいのに、定期観光バスがないのも残念。関連した事業の観光等ができるの良いのでは。バスで周遊するコースなど自家用車で来る人も利用できる。また、これから見所を迎える花、魔女の瞳、鎌沼、シャクナゲのトンネルなど「近くのお宝発見」のような企画は有料道路を利用させていただくためのPRにもなる。

回数券は、期限なしであれば旅館業、お店など販売に協力できるのでは。客に安いイメージを持っていただけると思う。また、割引実験など情報的なものをどんどん提供していただくと、宿泊客にも伝えられる。

ビューポイントでは、中津川溪谷の紅葉はすばらしいが、大変込む所。観光バスであれば徐行して高い車窓からよく眺められる。ドライブインの駐車場も普段は閑散としているが、シーズンには溢れる。三湖パラダイスは、狭いのでせっかくの景色を味わう時間が無く素通りしてしまう

のがもったいないと思う。

花見山のシャトルバスなど実例として良い取り組みだと思う。

委員

観光客からの苦情は参考になると思う。悪いことは多くの人に伝わる。観光地に住んでいて、最近聞いた例では、写真を撮る人から、どうしても撮りたいポイントのため、有料道路のちょっとした出入りでも料金を取られたこと、トイレの水が冬使えないため閉鎖されて立派なトイレも使えないこと、などがあつた。

18年前は渋滞がひどく、盆やゴールデンウィークなど3～5時間待ちの状態であつた。客にとって良いか悪いかは別として。

一般の人からすると有料道路、県道、国道の区別などは関係がない。これからは、通行、観光だけでなく、生存のための道路として防災も考えてほしい。磐梯山の噴火情報後、2年間ぐらいは観光客が減少した。観光客を保護する全体的な観点から観光客の求めるものを整備することも必要では。

また、会津はいろいろ恵まれ過ぎていて、接客レベルが劣っているところもあり、レベルアップを図る必要があると思う。

委員

5点ほど申し上げたい。利用客の減少とあるが、似通つた競争相手のような観光地の有料道路の変化と比べてどのような傾向にあるのかをみる必要がある。

社会実験の時に、有料道路や競合する一般道路の利用者について、どの地域からどのような目的できているかなど交通目的も含め、どこまでの調査だったか。目の前で逃げているお客さんの把握や他の地域から誘導する可能性、ポテンシャルなど、マーケティングを行う場合の参考になるのでは。

先のことを検討する上で、これから大規模修繕の必要な箇所がどのくらいあるのか明確にする必要がある。

独立採算的な各道路の取り扱いを1本1本どうするのかという議論が必要と思う。

それとは別に、公社をどうするのかという話があり、2階建てにあると思う。

今は、県からの短期融資で補っているが、税金の支出にも説明が求められる。公社の在り方を健全に保つことができ、また税金の支出もおかしくない理由を押さえる必要がある。

それらを全体として評価する場合、パイを大きく持つ必要がある。誰が儲かったかで適切に負担することが必要で、通行料金を下げれば絶対に利用客は増えるがそれで本当に良いのかどうか。従つて、県民や旅館業などいろいろな主体があるが、どのような主体がいて、どのように取り扱ったら、どのような影響があるか、ある程度具体的な数字を出して、総合的に結論に導いていくのがよいと思う。アカウントビリティを果たすことにもなる。

委員

先ほどの質問と同様に、通行者の中で、どこのナンバーが来ているのかを知りたい。

東京でPRをしているが、本当に東京で合っているのか、満足だけで終わっていないか。

委員

観光道路なので、絶えず魅力のある付加価値というものを考えられるのではと思う。

座長

この懇談会における論点は、有料道路の利活用をどう高めていくかという議論と道路公社はど

のような存在でどのような方向に持っていくべきものかという議論の2つがあると思う。

冒頭の説明で、償還期限は何年何月とあり、大体決まっているようだが、課題には償還期限の弾力的な運用の検討があり、2年くらい前にスカイバレーのように期限が過ぎたので県に移管した例があったが、少し弾力的に償還期限を延ばしながら運用するような議論ができるのかどうかという点を確認したい。

できるだけ有効に有料道路をどう使うかという議論がある一方で、実務的に、経営をどうしたらいいのか、経営団体の存在の仕方をどうしたらいいのかという経営方針の在り方の議論も一方にあり、本日はこの2つの議論が織り混ざっていたように思う。皆さんのご意見をお聞きしながらこの2本立ての柱で一定の方向性が出ると良いと思う。

そのためにも、バランスシート、PLの話など専門家もおられるので議論をきちっとする必要があり、それが委員の言われるアカウントビリティーでもあると思う。スカイバレーの処理などを例に、委員の共通認識として償還期限の経過、債務の有無をどのように乗り越えられるのかなど教えていただくと有り難いのでは。事務局からのコメントをどうぞ。

事務局

スカイバレーについては、平成15年度、30年の料金徴収期間で県管理に移っている。9億円未償還金があったが、内部調整の結果、10年間分割で補助する方法で整理し、年間9千万円ずつ県から補助している。地方道路公社法では、最終的には債務は県が保証する位置づけになっている。全国的にも同じような問題があり、償還期間をできるだけ長くできないかというのを今国の方に制度改正をお願いしている。40年だとペイできそうだが30年ではちょっと無理だというような意見が全国でたくさんある。

途中で改築事業等を入れると期間延長が可能な制度なので、改修費等が伴うものは延長した期間内に償還すればよいと考えている。

佐藤委員から出た案件は、道路公社のみではだめで、みんなで考えていなければならない部分がかかなりあるため、福島市が中心に窓口となって関係者が集まりいろいろ検討しているが、どうもお互いのエリアになると無口になる人が多く、前に進まないのが現状。ざっくばらんに話し合い、できるところからやる方向で進められればと思う。

座長

県の方からも商工会議所の方に陳情してはいかがか。

今日は、最初からこうしたらいいのではという議論が飛び交い、そういう点が徐々にこれから煮詰まっていけばいいなと思う。

公社事業の在り方を考えた場合、アイデアだけでなく、公社の性格やあるべき姿などの議論も進めながら、有料道路行政、有料道路利活用などの議論に収れんさせていけばいいかなと思う。

なお、今後の議事の進め方について事務局から説明願いたい。

事務局

資料2の「検討すべき課題」「回別検討テーマ(案)」について説明

座長

このとおりでよいか。1回1回がすごく重いと感じる。皆さんの意見は。

委員

これからの地方自治を考えるに当たっての良い材料だと思う。やむなくこのような結果になっているのであるから、これからどうしたらよいかを考えるにあたって、なるべく議論の時間をと

り、例えば、国の規制で越えられない部分や、県、各市町村の中でも理解が必要な部分など、資料は事前の配布でも良いし、まとめるポイントがあれば、その改善点を委員の立場から積極的にお話できる部分もあるように思う。

委員

大変すばらしい提案だと思う。検討すべき課題の4番目にある様々なニーズへの対応についてだが、県南方部では那須甲子有料道路は福島県側が落ちてきている。それに対する町村長からの要望等が話題となるが、なぜ逆転してきたか、有料道路に関わる町村の方々はどう考えているか、という点も次回までにまとめていただきたい。

座長

1回2時間で5回、しかも3回目には中間報告をまとめるのは、結構大変だと思う。事前にコメントをいただくなどの対応や、委員の方にも場合によっては時間の配分で考えていただく必要があるかと思う。

次回の開催日程は、(協議の結果)6月17日とする。

欠席予定の方へは、事前の意見照会等により意見集約するよう工夫させていただきたいと思う。